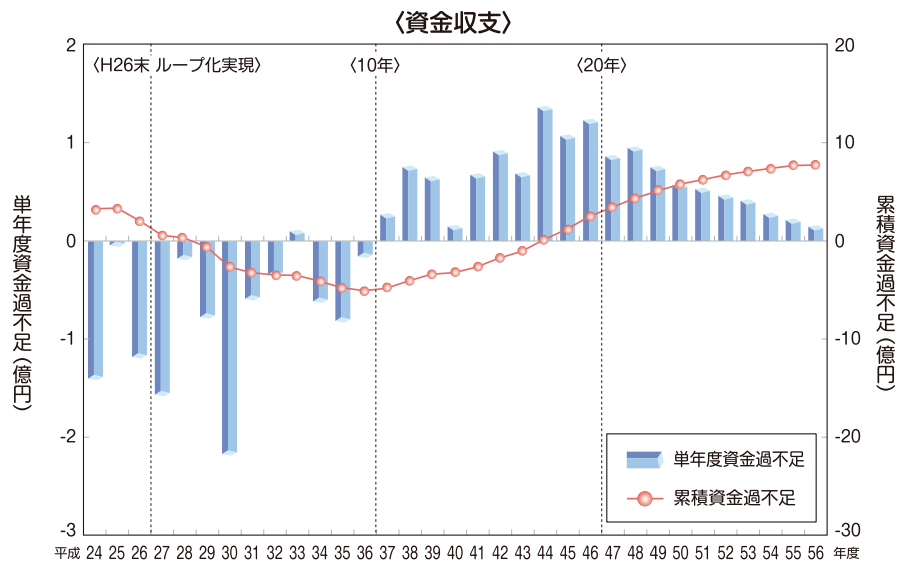
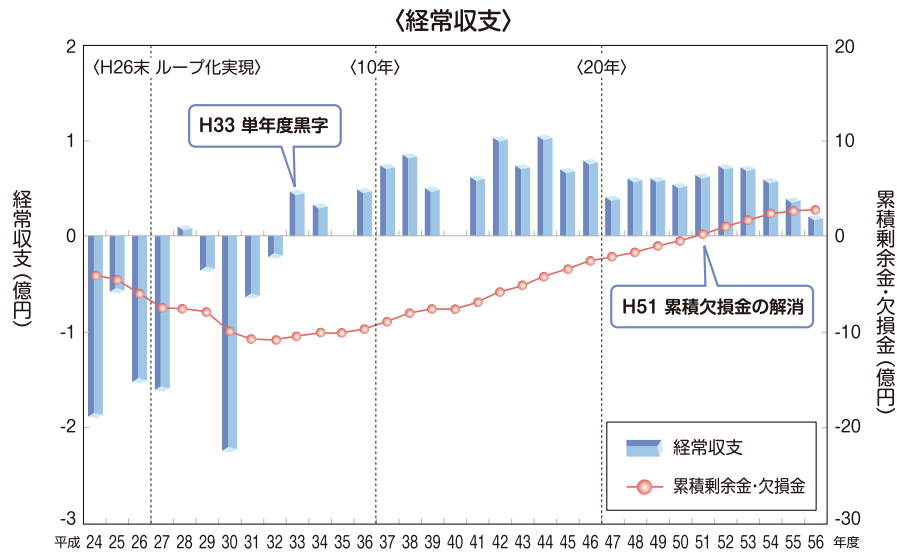


5 路面電車活用の今後の展開

〈参考3〉長期収支シミュレーション

シミュレーションの前提として、乗車人員の減少傾向を想定していますが、経営の効率化や利用者負担の見直し、新たな設備投資の税負担による整備を見込むことにより、平成33年度頃の単年度黒字、平成51年度頃の累積欠損金の解消が見込まれます。



路面電車のループ化に向けては、平成24年度から実施設計や法定手続きを行い、平成26年度に工事に着手するとともに、3両の低床車両の導入や既設線の機能向上等を行い、併せてトータルデザインによる魅力的な空間整備や地域との連携を行っていくこととしています。

ループ化を実現した後も、駅前通のシンボルストリートとしての魅力をさらに高めていくためには、本計画で示した魅力的な空間整備や地域との連携を長期的に発展させていくことが重要であり、他の交通機関や各交通施設との連携による道路空間の再配分や街区のまちづくりを含めた都市空間の有効な利活用も含めて検討を進めていきます。

また、今後は、路面電車が利便性の高い交通機関として、都心の回遊性を向上させ、より多くの賑わいを運ぶために、札幌駅方面への延伸ルートに関する具体的な検討を進めるとともに、「創成川以東地域」「桑園地域」についても、各地域のまちづくりの動向等も踏まえながら延伸の検討を行っていきます。

